

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大  
経営協議会（平成27年度第2回）議事要旨

1. 日 時 平成27年11月26日（木）14:10～15:55
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 小笠原議長  
片岡、横矢、中島、太田、常盤の各学内委員  
小山、田中、土井、野間口、樋口、宮瀧、矢嶋の各学外委員  
欠席者 ヴィーツォレック、宮原の各学外委員  
出席監事 二宮、野口の各監事  
陪席者 尾原、奥田の各部長  
西山、寒川、林田、井上、尾形、桑原、樋口、上坂の各課長
4. 配付資料  
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成27年度第1回）  
議事要旨（案）  
資料2 奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について  
資料3 平成27年度収入・支出予算（案）（補正予算）  
資料4 平成27年度 目的積立金の配分について（案）  
資料5 本学の主な動き（平成27年6月～11月）  
資料6-1 平成26年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）  
資料6-2 第2期中期目標期間における本学の業務の実績に関する評価結果について  
資料7 平成26事業年度財務諸表の承認について（通知）  
机上資料 「国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 財務報告書 Financial Report  
2015」  
資料8-1 平成28年度予算の概算要求における運営費交付金の状況  
資料8-2 平成28年度文部科学関係概算要求のポイント  
資料9 平成27年度外部資金の受入れについて  
机上資料 国立大学法人の財務運営についての考え方  
机上資料 S G U構想調書及び第3期中期目標中期計画素案における1研究科構想の抜粋  
参考資料 奈良先端大の概要と特色

5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成27年度第1回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

（審議事項）

（1）奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について

片岡委員から、資料2に基づき、奈良先端科学技術大学院大学学則等の一部改正等について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

（2）平成27年度補正予算の編成について

中島委員から、資料3に基づき、平成27年度補正予算の編成について説明が行われ、

審議の結果、原案どおり承認された。

- (3) 平成27年度目的積立金の配分について  
中島委員から、資料4に基づき、平成27年度目的積立金の配分について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

- (1) 本学の主な動きについて（平成27年6月～11月）  
議長から、資料5に基づき、平成27年6月から平成27年11月までの本学の活動状況等について報告が行われた。
- (2) 平成26年度に係る業務の実績に関する評価の結果について  
横矢委員から、資料6-1～2に基づき、平成26年度に係る業務の実績に関する評価の結果について報告が行われた。
- (3) 平成26事業年度財務諸表の承認について  
中島委員から、資料7に基づき、平成26事業年度財務諸表の承認について報告が行われた。
- (4) 平成26年度財務報告書について  
中島委員から、机上資料に基づき、平成26年度財務報告書について報告が行われた。
- (5) 平成28年度概算要求の状況について  
中島委員から、資料8-1～2に基づき、平成28年度概算要求の状況について報告が行われた。
- (6) 平成27年度外部資金の受入れについて  
横矢委員から、資料9に基づき、平成27年度外部資金の受入れについて報告が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・運営費交付金が減少する中、外部資金とは別に、大学独自の寄附金（基金）を集める方策について、考える必要があるのではないか。
- ・若手研究者の人材育成を行いつつ、その人材を活用して外部資金の獲得を活性化させ、キャリアパスに繋げることが必要ではないか。

(情報交換・意見交換)

小笠原議長から、机上資料に基づき、国立大学法人の財務運営及び1研究科構想について意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・今後、受験者が減少していくにあたり、授業料収入を増やす方策として、どれだけ魅力ある大学かをアピールし、学生を獲得するかということが重要ではないか。
- ・国立大学の存続のためにも、予算確保については、一大学での働きかけではなく、

他大学等と連携して行ってはどうか。

- 博士課程教育リーディングプログラムは、教員個人の負担が重いと聞いており、新たな体制を検討する際にはその点にも充分配慮すべきである。
- 情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学並びにその融合領域を発展及び再編し、1 研究科 1 専攻体制に移行するも、明確、かつ、見えるような分野とし、社会一般に受け入れやすい名称にすることが重要である。

以 上